

第6学年 国語科指導案

1 単元名 相手や目的に合わせて書こう「ガイドブックを作ろう」

2 単元の目標

- ・ 必要な情報を集めて選んだり、伝えたいことが効果的に表現できているかを考えたりして、よりよいガイドブックを作ろうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
- ・ 想定した利用者に役に立つ情報を考えて書いている。 (書くことア)
- ・ 読み手にとって必要なものや自分が知らせたいことを考えて、情報を選んでいる。 (書くことイ)
- ・ よりよい文章にするために、効果を考えて見直したり書き直したりしている。 (書くことオ)
- ・ 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解している。 (言語事項オ)
- ・ 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもっている。 (言語事項ウ)

3 指導にあたって

(1) 教材観

ガイドブック作りという実際の場を設定して、書くことに関する「目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりすること、また分かりやすい構成を考えたりすること」を学習内容とするものである。ガイドブックは読み手が関心をもって読み、しかも実際に役立つように工夫する必要がある。それは使う人の身になって構成や内容を考えるということでもある。本単元では、言葉の力や伝え合う力の基盤となる「書くこと」において、読み手にとって必要なことは何か、自分が伝えたいことは何かを考えて、より効果的な書き方ができることをねらいとしている。

(2) 児童観

児童はこれまで社会科見学の施設案内、観光案内など、身近なところでさまざまな種類のガイドブックに接している。このガイドブックの有無で効率が上がったり、見るべきものを見逃さないですんだりするを経験しているかもしれないが、その効用を自覚している児童は少ない。反対にわかりにくいガイドブックを手にして、困った経験もあるはずである。

分かりやすい情報の伝え方と、上手な情報活用の仕方を意識することは情報社会を生きていく児童にとって意味のあることと考える。

(3) 指導観

書く力を育てていくためには、まず、一人一人が書く意欲をもつことが大切である。そこで、単元の冒頭で「清湖小学校の6年生に読んでもらう」という相手意識、「町野に来てもらえるようなガイドブックを作る」という目的意識をもたせる。そして、児童一人ひとりがガイドブックについて具体的なイメージをもてるようにする。「わかりやすく、役立つガイドブック」とはどんなものかを考える時、読む人が同じ6年生であるという視点に立つことでより考えやすくなるだろう。

本校の研究主題である『自分の考えを持ち、生き生きと表現する子～考える力を中核とした読む力・書く力の育成』をめざして、既成のガイドブックから、その良さや問題点を自ら見つけ出すことで、ガイドブックに本当に必要な表現や項目が何かを考えるようにする。作成にあたっては、既成のパンフレットや資料の言葉を書き写すだけでなく、自分なりの小見出しをつけ、自分の言葉で表現できるようにしていく。その際、説明文や短歌・俳句で学習した体言止めの効果を想起させながら、より効果的な表現方法を選ばせたい。また、下書きができたならお互いの良さ、問題点を交流することで「よりよい文章」となるようじっくり話し合わせるようにしていきたい。

4 単元計画と評価計画（総時数 11 時間）

	学習活動	関心・意欲・態度	書く能力	言語事項
第一 次	学校や町野を市外の小学6年生に紹介するという目的でガイドブックを作ることを知り、学習の見通しをもつ。 (1時間)	単元のめあて、活動の内容と手順が分かり、ガイドブック作りに興味をもっている。(発言・観察)		
第二 次 調 べ る	ガイドブックを読み構成や項目などの特徴を調べる。(本時1時間)		既成のガイドブックを通して、ガイドブックの構成や項目などの特徴を見つけている。 (発言・観察)	
	紹介する内容を項目にまとめる。(1時間)		相手、目的を考えてガイドブックで紹介する内容を決めている。(発言・ワークシート)	
第三 次 材 料 集 め	必要な材料を手分けして調べたり、写真を撮ったり、行ったときのメモをまとめたりして集める。(1時間)		取材活動をし、ガイドブックを作るために必要な材料を集めている。(観察・ワークシート)	
	集めた材料の中から、相手や目的に合わせて、必要な材料を整理し選び出す。(1時間)		集めてきた情報を相手・目的に照らし合わせて、書くスペースや分量を考えて必要な材料に絞って選び出している。(話し合い・ノート)	
	ガイドブックの全体の構成を考え目次を作る。(1時間)		伝えたことや分かりやすさから全体の構成を考え、内容が端的に分かる言葉で見出しをつけて、目次を作っている。(話し合いノート)	文には色々な構成があることを理解している。(発言)
第四 次 表 現 の 工 夫	項目ごとにページ内の割付を考え、下書きを書く。(2時間)		伝えたい情報が読み手に分かりやすく伝わるように、写真・図、小見出しなどを効果的に配置し文章を書いている。(下書き)	語感、言葉の使い方に対する感覚について関心を持っている。(下書き)
	書いた文章を読み直し、訂正して仕上げる。(1時間)		伝えたい情報が読み手に分かりやすく伝わるように、「よりよい文章に」をもとに書き直している。(話し合い・作品)	
	表紙・後書きを付け製本する。(1時間)		ガイドブックを冊子に仕上げるために必要なことが分かり、協力して作業している。(観察)	
第五 次 交 流	できあがったガイドブックを読み合い、感想を交流して、学習をまとめる。(1時間)		友達のガイドブックを読み、伝えたいこと・工夫している点・役立つところなどから、よいところを伝えている。(発言・ノート)	

5 本時の学習（第二次 第1時）

- (1) ねらい ガイドブックのよさを見つけ、わかりやすく役に立つガイドブックの特徴を知る。
- (2) 評価基準 既成のガイドブックを比較して、ガイドブックの構成や項目などの特徴を読み取ることができる。 (書くことオ)
- (3) 準備 既成のガイドブック3種・既成のガイドブックの拡大コピー・ワークシート
- (4) 本時の展開

学習活動	時	主な発問 (○) と児童の意識の流れ (・)	支援 (◎) と評価 (◇) と留意点 (・)
<p>1 課題をつかむ</p> <p>・本時のめあてを確認する。</p> <p>2 考える</p> <p>・提示された既成のガイドブックの工夫を探す。</p> <p>3 深める</p> <p>・ガイドブックの共通点や工夫をふまえてどのガイドブックがいいか話し合う。</p> <p>4 まとめる</p> <p>・わかりやすいガイドブックの特徴をまとめる</p>	3	<p>○清湖小学校の6年生に読んでもらうガイドブックを作ろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「わかりやすく役に立つガイドブック」ってどんなもの？</p> </div> <p>○共通してかかれているところを見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3まいとも住所が書いてある。 ・どれにも電話番号が書かれてある。 ・料金がいくらかかるか全部に書いてある。 ・2まいは地図が載っている。 <p>○それぞれのガイドブックは、どんなところが工夫してあるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明がていねいでわかりやすい。 ・見出しがかっこいい。 ・文字が大きくて読みやすい。 <p>○「わかりやすく役に立つガイドブック」はどれか、班で話し合ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aは写真がたくさんあって、わかりやすいね。 ・Bは一つひとつの説明がくわしくて親切だよ。 ・Cは一文が短く言いたいことがわかりやすい。 ・Aは、大事なこう目が大きな文字で書かれていてわかりやすい。 ・Bのタイトルは、とても工夫してある。 ・Cは、メモらんがあるから役に立ちそう。 <p>○わかりやすく役に立つガイドブックの特徴をまとめてみよう。</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・一文は短い方がわかりやすい。 ・文字の大きさを工夫するといい。 ・写真のレイアウトを工夫するといい。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・読んでもらう相手を確認し、相手意識・目的意識をしっかりとさせるようにする。 ・1枚だけ見るのではなく、3枚を見比べるようにする。 <p>◇既成のガイドブックを通して、ガイドブックの構成や項目などの特徴を見つけることができる。 (発言・ワークシート)</p> <p>◎見つけられない児童には、見出し、文書のわかりやすさ、字の大きさ、構成、写真や図のレイアウトなどの視点をあたえるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み手の立場に立ってそれぞれの工夫を見つけるようにする。 ・班の中で、全員が意見を述べるようにする。 ・発言者の意見を受けて話すようにする。 <p>◎前に出された、それぞれの工夫を想起して考えるようにする。</p>

【読解力向上に向けた授業改善の視点】

《改善の方向》ア (イ) 評価しながら読む能力の育成

- ・「○○小学校の6年生に読んでもらう」という相手意識、「町野に来てもらえるようなガイドブックを作る」という目的意識をしっかりと持たせたい。その上で、ガイドブックから必要な情報を読み取ったり、内容や形式について、これまでの知識や経験と照らし合わせたりしながら、幅広い観点で評価しながら読む態度を育てていきたい。